

第32回

中山義秀文学賞

公開選考会

Nakayama Gishu
Literary Prize



PHP 研究所

女人太平記

はにゅう あすか
羽生飛鳥

後の北朝初代・光厳帝の典侍を務めた日野名子は、関東申次として権勢をふるった西園寺家の若き当主・公宗の正室となる。だが彼女の栄光の日々は、後醍醐天皇の謀略と足利尊氏の裏切りにより、あっけなく失われることに。そしてそれは、数多の武家と公家、皇族が互いに争い合う、混沌の時代の幕開けだった——。度重なる戦乱に人生をかき乱され続けた彼女が最後に見抜いた、尊氏の抱える「秘密」とは。名子が著した、最後の宮廷女流日記文学として名高い『竹むきが記』を下敷きに、激動の室町幕府播磨期を活写する歴史ミステリ小説。



KADOKAWA

天馬の子

たかせ のいち
高瀬乃一

南部藩の村に生まれたリュウは、馬と心を通わせる10歳の少女。母馬・生楽の世話の傍ら、隠れ家「柳の穴」で仲間と過ごす彼女のもとに、ある日、片腕のない馬喰(馬の目利き)が現れ、囁いた。「生楽の仔は天下の御馬になる」。けれど天馬は天馬から生まれるのが道理。生まれにとらわれず、違う何かになることなどできるのか？リュウは「育たない」と見捨てられた貧弱な仔馬を育て始める。村を襲う獣や飢饉。うねり始める少女と仔馬の運命。やがてリュウは村の人々のため、自らが大人になる道を探すため、外の世界へと駆けだしていく。



早川書房

南洋標本館

はやま ひろこ
葉山博子

僕らで南洋植物専門の標本館を作らないか？——日本統治下の台湾。漱石を読み、端正な日本語を話す陳は、台湾生まれの日本人・琴司と共に植物学者を志した。だが養父母の期待を背負った陳は、意思とは裏腹に医学の道へ。琴司は台北帝大に進み、帝国委任統治領南洋群島への採集旅行に出掛けた。一方、自らの道に行くと決めた陳は、陸軍軍属の技師としてニューギニア探検へと向かう。波瀾の運命を生きる台湾人青年の大ロマン

令和7年4月1日から令和8年3月31日までに刊行された書籍で、日本の歴史を素材とした文学作品(歴史・時代小説)の中から最も優れた作品が選ばれます。受賞者には正賞及び副賞100万円、米一俵、白河だるまが贈呈されます。

(五十音順)

(作家)

(作家)

(作家)

(文芸評論家)

選考委員 /

梓澤 要氏

伊東 潤氏

木下 昌輝氏

細谷 正充氏

令和8年 11月8日(日) 13:30~

新白信ビル イベントホール 入場無料 / 要申込

(白河信用金庫 西支店 白河市立石96番地)

①右 QR コード応募フォームよりお申し込み。

②下記事務局まで電話または FAX、窓口にてお申し込み。



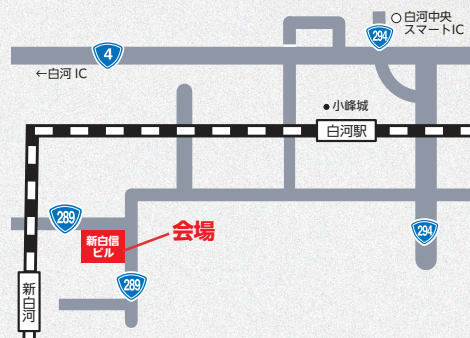
主催 中山義秀顕彰会

共催 白河市 白河市教育委員会 中山義秀記念文学館

後援 福島民報社 福島民友新聞社 朝日新聞福島総局 読売新聞東京本社福島支局 河北新報社

毎日新聞福島支局 NPO 法人しらかわ歴史のまちづくりフォーラム (公財) 立教志塾 (公社) 白河青年会議所

申込先 中山義秀顕彰会事務局(中山義秀記念文学館内) ☎/0248-46-3614 FAX/0248-46-3702



	氏 名	フリガナ	住 所	電話番号
1				
2				
3				